

2019 年度計画

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連)

－ 2020 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施計画 －

《学部関連》

① 大学入学共通テストの導入に向けた検討状況

② 英語外部試験導入に向けた検討状況

③ 一般入試に代わる入試の検討状況

2018 年 5 月 30 日に行ったプレスリリースの内容に則り、試験の配点、試験時限数、試験時間や大学入学共通テストの配点等について、継続して検討を行う。なお、使用できる英語外部検定試験、英語外部検定試験の評価方法等については、2019 年度初旬にプレスリリースを行う予定である。

④ 入試広報の展開状況

既存の海外指定校制度の抜本の見直しの議論を行う予定である。また「文部科学大臣指定 高等学校に対応する外国の学校の課程」にロシア連邦のオブシェエ・スレドニエエ・オブラゾヴァーニエの課程が加わったことから (2019 年 1 月 31 日更新)、ロシアでのリクルート活動を視野に入れる。

(2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連)

－ グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画 －

《学部関連》

[1] カリキュラムの体系化に向けた改革

コンセントレーション制度：2018 年度は、既存の 9 つのコンセントレーションに加え、新たに 2 つのコンセントレーションを設置し、既存のコンセントレーションについても、指定科目の見直しを精緻に行う予定である。

1 年生向け演習科目（「基礎演習」）の統合：学期間の開講科目数の差を減らし、より多くの履修機会を学生に提供すべく、「基礎演習」の統合を実施する（基礎演習 IA、IIA→基礎演習 A に統合、基礎演習 IB、IIB→基礎演習 B に統合）。

上級生向け演習科目（「上級演習」）免除時の要件変更：上級演習を免除する際の要件について、対象を上級レベルの科目に限定する（2018 年度以前：上級科目及び中級科目の履修により免除→2019 年度以降：上級科目の履修により免除）。これにより、例年一定者数いる上級演習免除者がより高いレベルの科目を履修することになる。

[2] 英語学位プログラムの進捗状況

学部が設立された 2004 年度より一部の科目を除いて科目は英語で設置されており、2018 年度実績で総科目数 901 の内 768 科目（85%）が英語で設置されている。多くの科目は他学部の学生にも開放されており英語学位プログラムの学生を中心に多くの学生が本学部の科目を登録している。2018 年度実績で 560 名の他学部生が本学部の科目を登録している。2019 年度以降は引き続き本学部所属学生の登録に影響を与えない範囲で他学部にも科目を開放し、結果的に他学部の英語プログラムの学生が同じ科目の中で交流するようなハブとなることも視野に入れる。

[3] 教員採用に関する取り組み（公募制、テニュアトラック制の導入）

2019年度もこれまでと同様に国際公募を原則とした教員採用を行い、採用時の研究・教育実績に基づきテニュアまたはテニュアトラックで採用することを判断する。2019年度に採用決定している専任教員4名中2名は海外の大学教員でアメリカおよび台湾の大学から本学部に着任する。また、国籍と性別の多様な教員の採用に配慮し、Waseda Vision 150の全学的な数値目標達成に貢献したいと考える。フルブライトによる招聘教員プログラムには継続的に申請し、アメリカの現職大学教員が循環的で持続的に本学部在籍するような環境を整えたい。

《大学院関連》

[1] 国際コミュニケーション研究科における学位審査の体制整備

博士課程研究指導終了退学者や、博士課程を経ない者からの学位論文提出（いわゆる論文博士）を受け入れる場合の手順や審査基準の点検および検討を進める。

[2] 教育課程の見直し

入試制度やカリキュラムの点検・見直しを継続して行い、研究・教育活動が円滑に実施できるよう、適宜制度の修正や科目の充実をはかる。また、退職等による指導教員に入れ替えが今後発生することから、スタディプランの体系見直しや展開についても今後検討する。

(3) 研究関連（Waseda Vision 150 核心戦略7、9 関連）

－ 研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み計画 －

《学部関連》

[1] SGU7 拠点との連携状況

本学部所属の4名の教員がSGU グローバルアジア研究拠点にメンバーとして参加する。

[2] 外部研究資金の獲得

本学部教員の2019年度の科学研究費の新規応募数は32件。また、1名の教員が科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業（さきがけ）の2018年度新規研究課題に採択されているので、当該事業に基づく研究活動を継続する。

本学部所属の2名の教員が“ERASMUS+” Programme Jean Monnet Chairsに採択されており、EUからの補助金に基づく研究活動を継続する。

国際部による助成プログラム「ブリュッセルオフィスにおけるセミナー実施」に本学部所属の4名の教員が申請し4名が採択されており2019年度にセミナーを実施する。

《大学院関連》

[1] 大学院生の研究・教育への参画

引き続き大学院生、とりわけ、博士後期課程の学生の研究・教育への参画機会を拡充していく。

[2] 研究科紀要の活用

研究科紀要「トランスコミュニケーション/Transcommunication」を、研究科のステータスをあげる情報発信のツールとして位置付け、所属教員および学生が積極的に活用できるよう引き続き検討する。

(4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略8 関連)

－ 派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み計画等 －

《学部関連》

[1] 海外での学習経験をカリキュラムに組み込むことについて

学部が設立された 2004 年度より日本語を母語とする学生に対して 1 年間の海外留学を義務付けており、これまでに年間 400 名～600 名、14 年間の累計で 7,086 名を留学に派遣している (2018 年度の派遣学生は 457 名)。留学の形式や派遣先、派遣期間も多様化し、交換、CS-R、CS-L、ダブルディグリー、箇所間協定に加え少数ながら私費留学をする学生もいる。留学単位認定も 14 年間、7,000 名を越える経験を基に一定のルールに従って留学委員会の Small Working Group で認定を行う仕組みが構築されている。2018 年度の認定単位の平均は春学期認定 (1 年留学者 33.4 単位、1 学期留学者 16.9 単位)、秋学期認定 (1.5 年・2 年留学者 40.0 単位、1 年留学者 34.1 単位、1 学期留学者 12.0 単位)。

[2] 留学生の受入促進

本学部の学生総数 3,000 名中約 1/3 である 1,000 名程度の留学生を約 50 の国/地域から受け入れており、2019 年度以降もこの水準を維持する。この中には大学全体の交換留学生の 45%を引き受けている SP3 プログラムの学生約 300 名が含まれており、それ以外にもダブルディグリー受入学生やグローバル・リーダーシップ・フェローズ・プログラム (GLFP) の学生が含まれている。ダブルディグリープログラムについては現状で協定のある大学に加えて香港中文大学およびチュラロンコン大学との間で準備が進んでいる。本学で最大の留学生受入組織として引き続き留学生の受入を促進するが、一方で特に交換留学生の中に特記事項 (病気、メンタルヘルス、発達障害、人間関係等で、全体の約 5%)、特別配慮依頼が多く、全学的な支援体制の充実が望まれる。

[3] 箇所間協定の拡充

締結が完了したパリ政治学院との BAMA プログラム (国際教養学部の学士とパリ政治学院の修士を合計 5 年で取得するプログラム) について広報を開始する。

[4] 文部科学省 大学の世界展開力強化事業 (AIMS プログラム) による学生交流の実施

補助金事業期間は終了しているが、東南アジアの関係国との学生交流の継続を目的として指定寄付による AIMS 参加学生修学支援奨学資金を利用し、大学間協定の枠組みの中で規模を縮小して運用して行く。

《大学院関連》

[1] 海外の大学院との連携強化

研究・教育における連携や教員・学生相互の交流などの可能性を引き続き検討していく。

(5) その他

－ (1) ～ (4) に該当しない、学術院独自の戦略・プロジェクト等－

[1] 「地域研究および多言語・多文化教育プログラム」(APMプログラム)の実施

- ・ 2019年度秋学期から3名の講師(任期付)が任期の最終年度に入る。本プログラムでは**協定大学(パリ政治学院、サラマンカ大学、北京大学、ソウル国立大学)からの推薦/応募による若手の外国人教員(博士学位取得後5年以内)の循環型で持続可能な交流のパートナーシップ**を目指しており、次のサイクルの教員の獲得に向けてパリ政治学院、サラマンカ大学、北京大学を対象として推薦依頼を行う。
- ・ 以下のトライリンガル教育科目を引き続き国際教養学部に設置する(CLIL[内容言語統合教育]科目を含む)。これらの科目群の一部は国際教養学部の学生だけでなく、他学部の学生にも開放しており、2018年度には合計で614名の学生(うち80名の他学部の履修者を含む)が多言語運用能力と多文化理解に必要な実践教育を受講している。
春学期 計20科目(フランス5、スペイン5、中国語5、韓国5)
秋学期 計17科目(フランス4、スペイン4、中国4、韓国5)
- ・ APMプログラム主催、APM教員の計画段階からの参画により国際共同シンポジウムまたは連続ワークショップを企画・開催する。
- ・ パリ政治学院との間で締結した学士・修士5年プログラム(5BMプログラム)の協定に基づきプログラムを導入、学生に対する告知を進める。
- ・ 国際教養学部の留学準備講座にAPM教員4名が参加し、それぞれの国への留学の意義について講義を行う。
- ・ APM-TAを拡充し、APM設置科目の中でTAを採用する。国際学術院からは国際コミュニケーション研究科、アジア太平洋研究科から採用し、他の学術院からもその言語のネイティブ学生を採用し、APM科目の授業運営補助を行う。

APM教員4名全員でCLIL教育をテーマとする科研費(2019)に申請した。APM教員1名が特定課題研究(2018)に採択。APM教員4名全員(5件)が特定課題研究(2019)に申請。これらの研究費について、採択されたものを利用して、地域研究および多言語・多文化教育に関する研究を推進する。APM教員1名が韓国学中央研究院によるKorean Studies Grant(2018)に申請し採択(US\$16,000)、東京外国語大学教授と共同研究を行って行く。

以上